

資料番号	3
------	---

令和7年6月27日
課名 土木建築局港湾漁港整備課
担当者 港湾計画担当監 井上
内線 4024

福山港港湾脱炭素化推進協議会（第3回）の開催結果について

1 要旨・目的

福山港における港湾脱炭素化推進計画の策定に向けて、有識者、関係企業、関係団体、関係行政機関等で構成する「福山港港湾脱炭素化推進協議会（第3回）」を6月5日に開催したので、その結果を報告する。

2 現状・背景

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国際物流の結節点かつ産業拠点となる港湾において、

- ① 水素・燃料アンモニア等の大量・安定・安価な輸入や貯蔵等を可能とする受入環境の整備
- ② 脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化
- ③ 集積する臨海部産業との連携等を通じて温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルポート（以下、「CNP」という。）の形成

を推進するため、令和5年度に広島港及び福山港、令和6年度に尾道糸崎港において、「港湾脱炭素化推進協議会」を立上げ、CNPの形成に向けて取り組んでいる。

3 概要

- (1) 実施主体
広島県

- (2) 開催日時
令和7年6月5日（木）10：00～

- (3) 場所
福山プラザホテル会議室（福山市住吉町1-40）
※WEB併用

- (4) 実施内容

ア 議事

- (ア) 福山港港湾脱炭素化推進計画（案）について
(イ) 意見交換

イ 構成員等からの主な意見

- (ア) 脱炭素化の取組みとしてCCUS*は有効な手段の一つと考えており、CO2を回収する設備は入手可能で、回収後のCO2についても貯留や利用方法が検討されているが、現状としてはコスト面の課題が大きい。その解決については、関係企業や業界だけの努力では到底乗り越えられないレベルであると認識しており、国による具体的な道筋や仕組み作りに大きな期待を持っている。

- (イ) 福山港の競争力の強化とブランド化のために、構成員である企業だけでなく、自治体や国も含めて総合力で取り組むことが非常に重要である。この計画において、2030年、2050年の中長期的な目標を設定したが、計画を策定することがゴールではなく、今後も情報交換をしながら進めていただくよう協力をお願いする。

※CCUS：二酸化炭素の回収・有効利用・貯留（Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage）の略語で、火力発電所や工場などからの排気ガスに含まれるCO2を分離・回収し、資源として作物生産や化学製品の製造に有効利用することや、地下の安定した地層の中に貯留する技術。

ウ 構成員等

別紙のとおり

エ その他

(ア) 協議会の議事概要は、県ホームページにおいて公開する。

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/103/cnp-keikaku.html>)

(イ) 開催状況



協議会の開催状況

4 今後のスケジュール (予定)

令和7年7月：計画策定・公表

福山港港湾脱炭素化推進協議会 名簿

(順不同)

役割	区分	企業名等
構成員	有識者	国立大学法人広島大学
	関係企業	J F E スチール株式会社西日本製鉄所
		ツネイシホールディングス株式会社
		日本化薬株式会社福山工場
		株式会社ひろしま港湾管理センター
		福山バイオマス発電所合同会社
	関係団体	中国地方港運協会福山支部
		公益社団法人広島県トラック協会
	関係行政機関	国土交通省中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所
		広島県土木建築局
		福山市建設局
	オブザーバー	関係行政機関
国土交通省中国運輸局		
環境省中国四国地方環境事務所		
広島県環境県民局		
広島県商工労働局		
福山市経済環境局		
経済団体		一般社団法人中国経済連合会